

## コットンリントーを変更した CL - EE15N の特性

第 56 回 大阪透析研究会

第 46 回 日本透析医学会学術集会

和田 茂・丸山禎之<sup>1</sup> / 川合右展・脇川 健・山田明子・佐々木敏作<sup>2</sup>

(大阪掖済会病院 透析室<sup>1</sup> / 内科<sup>2</sup>)

【目的】不純物をより少なくした透析膜原料に変更した CLEE-15N(NEW)の透析中の血液凝固活性について従来の CLEE-15N(OLD)と比較した。

【方法】3 症例にて各透析器の 2 週間使用後に透析(HD)開始時、30 分時、HD 終了時の Plt 数、TAT、 $\gamma$ -TG を測定した。IL-6 の比較は HD 開始時と 30 分時とした。また無ヘパリン透析中の開始時と 30 分時にて ACT を測定した。

【結果】NEW 使用時の Plt 数は漸減し、HD 終了時には開始時や OLD に比し、有意に低下した( $p < 0.04$ )。ACT は 3 症例ともに OLD に比し、短縮は抑制された。TAT は 30 分時で  $12.9 \pm 3.2 \mu\text{g/L}$  と上昇したが、HD 終了時では  $8.7 \pm 0.7 \mu\text{g/L}$  まで低下した。OLD 使用時の  $\gamma$ -TG は 3 症例ともに上昇したが、NEW では 2 症例でその上昇はみられなかった。IL-6 は残血を認める症例で上昇を認めたが、透析器による差異はなかった。

【結論】コットンリントーを変更した CLEE-15N の透析中の血液凝固活性は OLD に比し、抑制された。